

「ウエディングマーチ」が定着 愛知県早尾花き組合(JA海部管内)

太陽熱という自然の力を利用した、環境にやさしい防除技術とし、注目される実践事例を紹介する。

愛知県のJA海部管内の早尾花き組合は、切り花用湿地性カラーの疫病対策として、圃場の「太陽熱・石灰窒素法」による消毒と耐病性品種の導入とあわせて、疫病防除技術を確立し、切り花を安定して生産している。

この地域は木曾川の流域で、壤土、砂壤土のわき水地帯。用水かけ流し栽培のため、疫病が地区全体にひろがった。当時の品種は、収量は多いが疫病に弱い「チルドシアナ」。疫病で全滅した圃場もあり、全体の収穫本数が半減するという大きな被害を受けた。

薬剤による防除は、地下水や河川の汚染にもつながることから、対策に苦慮していた。しかし、太陽熱による土壌消毒と耐病性のある「ウエディングマーチ」が定着した。それ以来、「生産は安定している」(浜田組合長)。

同組合では、1株の使用年数を3-4年とし、株を更新するたびに圃場の太陽熱消毒をおこなっている。

日本農業新聞より〔1998.2.27〕